

田上町立羽生田小学校



学校データ

【学級数】

14学級

【児童生徒数】

251人

【地域コーディネーター
の有無】

有・無

「田上町のキャリア教育」の充実による自己実現を図る児童生徒の育成

1 はじめに

田上町では、平成22年に「田上の12か年教育」を策定し、キャリア教育、異校種間連携を推進し、自己実現を図っていく子どもの育成に取り組んでいる。

キャリア教育について、「学校間連携」「地域との連携」「体験活動を通じた連携」という枠組みを設け、地域の人的・物的資源を活用した連携体制づくりを行った。

2 取組の実際

(1) 学校間連携

①町教育研究協議会における「地域連携部」の新設

②町教育委員会作成の「田上町のキャリア教育に係る人材バンクの一覧」の活用と情報更新

学校と地域の連携を図る目的で、「地域連携部」を新設した。町内各校の地域連携担当教員が、部会において、各校で行われている地域連携の取組について情報交換をしている。また、各教科、領域に関わる地域の人材や団体が記載された冊子「田上町のキャリア教育に係る人材バンク」を活用し、地域の人的資源を生かした学習活動を行っている。また、毎年度、地域人材の情報を更新したり、加えたりしている。

(2) 地域との連携

①学校地域コーディネーターとの連携

②学校支援ボランティア活用の取組

地域の方々が学校の教育活動に携わることで、子どもたちは郷土を知り、人生観、職業観を肌で学ぶことができる。

4年生は、町の特産物の「竹」の魅力に迫る学習を行った。子どもは、竹についての学習を進める中で、竹林を管理する人や竹細工を作る人など、様々な地域の方々との交流を通して、地域のよさに気が付いた。作成した竹細工や竹についてまとめた新聞を地域の施設に届け、地域とのかかわりをさらに深めた。



田上の竹を使った竹細工教室

学校地域コーディネーターと協働し、地域人材活用の方途を探ったり、学校支援ボランティアへ「いきいき県民カレッジ『成果活用促進事業』（新潟県生涯学習推進センター）」への参加を働きかけたりした。

(3) 体験活動を通じた連携

①学習活動の共有・共通化を図る取組

②情報発信の取組

田上町のキャリア教育推進のため、

それぞれの小学校区において、地域と連携しながら、各教科学習や総合的な学習の時間において、様々な体験活動を行っている。

田上町内の2小学校では、総合的な学習の時間に5年生が米の栽培・収穫活動に取り組んでいる。両校共通した学習活動であることから、共通化できる取組として、両校同一の講師より学習活動支援・指導を受けた。

5年生児童

「米の栽培・収穫・販売活動の感想」

いつも何気なく食べているお米を育てる過程の最初が、泥に入ることからなんて初めて知りました。稲が生長していく姿を見て、お米はこうやってできていくのだな、と実感しました。収穫したお米を「道の駅たがみ」で販売することになり、準備を進めながら、お米を売ることの大変さも分かりました。米作りを通して、お米の大切さと田上の自然の豊かさが分かりました。

広報活動として、ラジオ会社にCM作成依頼、新聞社に取材依頼を行った。「道の駅たがみ」での米の販売活動では、両校の子どもたちが一緒に活動した。米に深くかかわる活動を通して、子どもはふるさと田上への愛着を一層深めることができた。また、情報発信により、他地域の人々にも子どもの活動の様子を伝えることができた。



「道の駅たがみ」での米販売活動

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果

- 地域と連携した体験活動の充実により、子どもを地域の人・物・自然に深く関わらせることができた。活動を通して、子どもは地域から多くを学び、地域の良さに気が付くことができた。
- 地域を学びの場とし、地域の人とかかわることにより、子どもは新たな知識を獲得したり、地域に根ざした活動を続けている人々の思いや願いに気が付いたりすることができた。
- 学校間連携、地域連携の体制づくりや取組により、教職員のキャリア教育に対する意識が高まり、具体的な取組の充実につなげることができた。また、学校間、学校地域間とのつながりが強まり、より協働的な取組に高めていくことができた。

(2) 課題

- 協力機関との連携・協議のあり方や組織の運営持続化などについて検討していく必要がある。そのためのPDCAサイクルの確立が重要である。
- キャリア教育を推進するために、定期的に活動を振り返る場を設定することが必要である。地域連携担当教員や学校地域コーディネーターを活用し、連携事業の整理・統合・削減について考察していくことも必要である。

4 おわりに

「志をもって意欲的に学び 自立と思いやりの心をもつ たくましい子ども」

これは、「田上の12か年教育」で示された田上町の目指す子ども像である。今後も、学校間連携、地域連携によるキャリア教育の充実を通して、田上の子どもの15歳までの育ちを保障していきたい。